

<英文法超基礎プリント④⑩> Lv. ★★☆☆☆☆ 対象: 中1-2~

① 第2文型 SVC

He is a singer. 「彼は歌手だ」

上の文では is (be動詞) のあとに「a singer」がきて、「1. になっている。このように、主語の中身を表していることばを (2.) [3.] といふ。」と

② Cになれるヤツ

- Cに来ることばは、意味の上で (4.) になる。
 → Sには必ず (5.) がくるので、それと意味の上でイコールになるCには (6.) が来る。(⑤を参照!)
 (7.) もCになれる! (⑦を参照!)
 → 7は (8.) することば。例えば、「犬」という名詞に「白い犬」
 「かわいい犬」「私が飼っている犬」などのことばはすべて (7.) の働き!

Q. なぜ7もCになれるのか? ← 主語になる名詞と品詞がちがうのに...
 修飾は「9. 」関係とも言えるから! 例えばさっきの「白い犬」を考えると、
 「犬= 白い」とも考えることができる。

I am ^形 happy. 「私は幸せだ」 The hotel was ^形 nice. 「そのホテルは良かった」
 S C S C

③ 後ろにCをとる動詞

① 「～である」

(10.) + 形・名 I am a student.

② 「～のままである」

(11.)・(12.)・(13.) + 形 He kept quiet.
 彼は黙ったままだった。

③ 「～になる」

(14.) + 形・名 / (15.)・(16.)・(17.) + 形

④ 外見・様子系

look + 形 「18. 」 / sound + 形 「19. 」

③ つづき

④ 外見・様子系

seem [appear] + 形・名 「20.

⑤ 感覚系

smell + 形 「21.

taste + 形 「22.

feel + 形 「23.

「24.

④ 第3文型 SVO

I play baseball. 「私は野球をする」

I play. だけだと「何を」するのかがわからない。なので、「何を」表すモノが必要となる。それを (25.) [26.] という。

☆ OになるのはSと同様、(27.)のみ! Cに名詞が来たときの
見分け方は、(28.)かどうかである。

He became a doctor.

「彼は医者になった」



「He = a doctor」と言えるので

「a doctor」は C

(イ-ジ) S ← V → C

He visited a doctor.

「彼は医者を訪れた」



「He ≠ a doctor」なので

「a doctor」は O

(イ-ジ) S V → O

☆ 動詞によって後ろに何がくるのが決まるので、意味だけでなく
その働きも覚えることが重要!

⑤ 第1～3文型までのまとめ

$\frac{I}{S} \quad \frac{\text{live}}{V} \quad (\text{in} \quad \text{Osaka}) \rightarrow SV$ 「私は大阪に住んでいる」
↳ 後ろに O を必要としない V を (29.) という。

$\frac{I}{S} \quad \frac{\text{am}}{V} \quad \frac{\text{a teacher}}{C} \rightarrow S=C$ 「私は教師だ」
↳ 後ろに C が必要な V を (30.) という。

$\frac{I}{S} \quad \frac{\text{teach}}{V} \quad \frac{\text{math.}}{O} \rightarrow S \neq O$ 「私は数学を教えている」
↳ 後ろに O が必要な V を (31.) という。